

全国協議会 ニュース

2009年7月1日発行 第205号

発行所 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒160-0005 東京都新宿区愛住町23-1 Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217 FAX.(03)3356-8637
発行責任者:中野勝博
http://www.marow.or.jp/ E-mail:office@marow.or.jp

郵便振替口座 00150-4-15754
銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

心に響く言葉と歌声 都城から全国の仲間へ

年に一度の「全国骨髄バンクボランティアの集い」(全国協議会主催、宮崎県及び都城共催、みやぎ骨髄バンク推進連絡協議会主催)が、5月30日宮崎県都城総合文化ホール大ホールで開催されました。

「結」を大会テーマに掲げた今年の大会には、全国のボランティア及び地元宮崎県民の皆さん合わせて約600人が参加しました。

第1部の記念式典では、共催者として宮崎県及び都城市の挨拶、来賓として厚生労働省、日本赤十字社、骨髄移植推進財団(直前のキャンセルから一転して移植調整部長の代読)、さい帯血バンクネットワークからの祝辞に続き、骨髄バンク運動を支援して下さった8団体に大谷会長から感謝状をお贈りしました。

特に共催者である都城市の長峯市長は、自身も財団説明員であることから、ボランティア活動を通して感じた骨髄バンクの意義をわかりやすく語られたのが印象的でした。

第2部は、記念イベントとして、都城を拠点に活動しているタカオさんによるアコースティックライブがあり、聴き手の心に触れる歌声に会場はやさしさに包まれました。続いて行われた女優の東ちづるさんと大谷会長によるトークショー「生きて



るってシアワセ!」では、幅広いボランティア活動で知られる東さんと骨髄バンクとの出会いを始め様々なエピソードが、大谷会長との息の合った、時にはユーモア溢れるトークを通じて紹介され、会場は共感に包まれました。

関連イベントを含め、企画から入念な準備、当日の運営等に至るまで、主管のみやぎ骨髄バンク推進連絡協議会をはじめとする関係者の皆様、今大会の成功に向けて並々ならぬご努力をいただきましたことに深く感謝を申し上げます。

なお、来年の全国ボランティアの集いは、全国協議会設立20周年記念大会として東京で開催する予定です。

●南国都城で人の温かさを実感!

宮崎に着いて私が最初に感じた事は、暑さに負けないくらい人がとても明るい、ということでした。そんな南国都城での大会は熱く元気な大会でした。大会テーマの「結」のごとく、熱さの中に人と人の結びつきの温かさが感じられた大会でもありました。

会場には「ありがとうキャンペーン展」をはじめ様々なパネルが展示されており、学生ボランティアの皆さんが笑顔で迎えてくれました。印象深かったのは東ちづるさんと大谷貴子さんのトークショー。骨髄提供したばかりのドナーさんも交え、バンク設立までのあゆみやドナー登録について丁寧に話してくれました。「まるで妊婦のようだった」と自らの体験を話してくれたドナーさん、ドナーさんの下で大事に育てられていたことを知り、ドナーさんと患者さ



らとの関係がより深く温かいものを感じられました。家族の理解と協力が必要不可欠なこと、ドナーさんもまた色々な人に支えられていたことなど、ドナーさんの生の声を聞くことができ、大会を通して命の大切さ、人と人とのつながりの温かさをあらためて実感することができました。

宮崎の皆さん、素敵な大会をありがとうございました。静岡・中山さんに感謝します。(東京・大塚)

●そこかしこに「結」の広がり

5月29日に都城のウェルネス交流プラザ・ムジカホールで開かれた前夜祭のチャリティライブは、始めから終わりまで、全てのジャンルを心から楽しめました。ロック、ジャズ、津軽三味線ありの多彩な演奏は日頃の疲れを忘れさせてくれ、音楽にひたつて幸せな夜を過ごしました。

30日のボランティア大会の第2部は当地在住のシンガーソングライター・タカオさんによるアコースティックライブが始まりその歌声と静かな語り口に感動しました。一般の参加者も骨髄バンクへのメッセージを受けとめてもらえたと思います。観光も楽しもうと、関之尾滝へ行きました。驚いたことがあり



ました。ガイドさんや休憩所の皆さんがボランティア大会のことを知っていて、私達の活動を応援してくださったのです。その他に都城のどこへ行ってもポスターを目にしました。テーマ「結」の言葉と企画力、2カ所のホールの立派なこと、爽やかな天気にもめぐまれて、全てが印象深く、心に残る大会でした。都城の皆さんに感謝します。(東京・大塚)

●2009年全国大会 in 都城 終了!

去る5月30日、宮崎県都城市にて全国大会を開催いたしました。足を運びいただいた皆様、心より感謝申し上げます。宮崎の会は設立5周年目と他の団体さまに比べたらまだまだ若い団体です。そんな未熟な私たちが全国大会を是非、宮崎で!と立候補したのが一年ちょっと前でした。私たちの会には夢がありました。2001年宮崎市内で開催された東ちづるさんと大谷さんのトークショーに参加した私は、いつかボランティアをやってみようという心がフツフツと湧き上がるのを感じました。その後、そこで知り合ったメンバーと会を設立し、いつか私たちがこのようなイベントを開催したいね...と夢見ていたのが、今回のイベントに繋がりました。

当日は何かと不行き届きの点多々あったことでしょうか。宮崎のメンバーみなさん要領が悪いながらも一杯頑張りました。

大会の後ですが、イベントの2日後に宮崎県副知事に職場でお会いしました。ご臨席のお礼を述べるに「考えさせられました。私もド

ナー登録したいと思っています」と、ありがたいお言葉をいただきました。イベントに出演していただいた地元のアーティスト、ちんどん屋さん、司会者さんが口を揃えて「全国のボランティアの心の温かさが客席から伝わってきた泣きそうになりました」と逆に感謝のお言葉をいただきました。嬉しくもあり、協議会の素晴らしいボランティアの仲間が居られることに誇りを感じました。

大会の様子は幾つかのマスコミに取り上げられケーブルテレビでは一日4回、一週間を通して当日のニュースが流れました。新聞にも取り上げられ「社説」にまで掲載されました。ドナー登録希望者や、ボランティアに加わりたいという問い合わせもあり、反響はまだまだ続いています。ありがとうございます。やってよかったなど、思っています。

イベントで種は撒かれました。これからはその種に怠らず水を与えて種を育てて行きたいと思っていま

2009年度総会 無事終了

宮崎県都城市での全国大会の翌日、5月31日午前9時から行なわれた通常総会では、活動報告・計画案、決算・予算案についてご承認いただきました。

続いて第1回代表者会議が開かれ、全国協議会より認定NPO申請の説明、主催事業の報告が行なわれ、中でも「ありがとうキャンペーン」は、骨髄バンク関係機関、全国のボランティアが心を一つにして長年活動してきたことの表れでもあります。しかし残念ながら、その中で公開フォーラム、東京の会裁判などの報告から聞こえてくる財団との不協和音は、頑張ってきた骨髄バンク関係者にとって重く苦しいものであり、私たちの真の目的から逸れていってしまう現状は悲しく辛いものであることは間違いありません。

造血幹細胞移植を取り巻く環境の再構築を図る時期となったことを痛感し、今後私たちは全員一丸となつて、真の目的のために活動を推進していくことが必要であると感じました。

また今回は今後の展開として、末梢血幹細胞移植について九州大学病院の嶋崎崇徳先生から現状と課題について詳しく講演いただきました。採取の方法、スケジュール、フォローアップ、リスク等まで丁寧に分かりやすく説明していただきました。骨髄移植、さい帯血移植と同様に、患者さんにとって選択肢の一つの

わんぱく相撲 土俵の外では骨髄バンククイズ

5月23日、相撲を通じて「努力・礼儀・思いやり」を学ぶ第33回わんぱく相撲新宿区大会(社団法人東京青年会議所主催)が新宿コマミックスセンターで開催され、今年も骨髄バンクの普及啓発を行いました。

300名を超える未就学児から小学校6年生までの学年別の取り組みの中には、レスリング?という場面もありましたが、顔を力ませてつっぱりをする真剣なまわし姿に、土俵の周囲から大きな声援が送られました。早々と敗退した子ども達のために、会場外の緑日コーナーの一角に骨髄バンクコーナーを頂き、財団職員と全国協議会事務局による混成メンバーで、骨髄バンクについて知ってもらう「わんぱくクイズ」を行いました。

紙芝居パネルで勉強したあと、質問に回答する回答をみつけた正解者はおもちゃが引けるルール。質問カードと回答カードは離れた場所



にあり、行ったりきたり、再度パネルを読みに行ったりと、子供たちが狭いスペースを駆け回っていました。子供たちとその家族にも骨髄バンクの必要性を理解してもらおう機会に

骨髄バンクチャリティー ゴールドジム格闘技スクール発表会

5月31日、ゴールドジム・サウス東京アネックス(東京大田区)にて、標記チャリティーイベントが開催されました。主催者の一人、故アン・デイ・フグと親交のあった平直行氏の熱い思いから始まったこのイベントは、毎年恒例で開催されています。ジムが開講する18スクールが、日ごろの練習の成果を約5時間に渡って披露する発表会なのですが、プロや有名格闘家の参加もあって本格的なファンの姿も多く、満員の会場は熱気に溢れていました。

格闘技と一口で言ってもスクールの種類は幅広く、合気道やテコンドーの真剣勝負もあれば、4歳児の空手の試合もあり会場はアットホームな雰囲気です。途中で5分ほどの寄付贈呈セレモニーが設けられ、来場者の入場料千円が全額寄付される旨が説明されました。もちろんセレモニーは、照明に浮かぶ真っ白なリング上!社長からの、今後もチャリティーイベントを続けますとお言葉



のチャリティー出演に感謝!



治療方法となり、あるいはドナーさんの安全を守るといふことからも、今後の研究に期待したいと思えます。2009年度は運動スローガン「患者と家族のために私たちが出来ることがある」を軸に活動を進めて参りますので、ご支援・ご協力をよろしくお願い致します。(川瀬)

財団元職員解雇は無効 東京地裁が判決

骨髄移植推進財団から懲戒処分により解雇された元職員の山崎裕一氏が、解雇を不当として地位確認と慰謝料の支払いを求めた裁判の判決が、6月12日に東京地裁で開かれました。東京地裁は、原告(山崎氏)の訴えを認めて解雇は無効とし、財団に対して解雇以降の給与・賞与と慰謝料50万円の支払いを命じました。

判決理由の中で裁判長は、財団が山崎氏を懲戒解雇する主たる事由とした「原告(当時総務部長)が、当時の常務理事(依願退職)によるセクハラ・パワハラが疑われる行為があるとして、正副理事長に提出した報告書は虚偽であり、誹謗中傷である」との主張を否定し、「細部に事実と合致しない点もあるが、基本的に報告書の内容は事実」と認定しました。

その上で、「原告は総務部長として当然の職責を果たしたにもかかわらず、被告(財団)は元常務理事に対する適切な指導や処分を行わず、原告を降格し解雇したのは不法行為にあたる」として、解雇事件では異例とも言える慰謝料の支払いを命じました。

「名誉毀損にあたる」として、東京の会を訴えている裁判にも、大きな影響を与えそうです。これに対し財団は判決を不服として東京高等裁判所に控訴しました。しかし、一審判決でここまで事実関係が明確に認定された以上、新たな証拠等がない限り、二審で判決が覆る可能性は低いと思われます。今回の判決で財団に対する社会的信頼は大きく揺らいでおり、控訴して敗訴すればダメージがさらに拡大し、骨髄バンク事業への悪影響が懸念されます。

全国協議会は、財団に対して、これ以上財団への社会的不信を増大させないためにも、判決を真摯に受け止め控訴を取り下げること、財団の収入は寄付金や国庫補助金、患者負担金、医療保険等でまかなわれており、その趣旨に合致しない慰謝料や裁判費用を予算から支出しないこと、本件に関する責任の所在を明らかにし、再発防止に向けて役員および職員の意識改革と組織運営上の改革を断行すること、を求める要望書を提出しました。

あわせて、財団理事・評議員にも適正な判断をして下さるよう、要望書を提出、骨髄バンク議員連盟に対しても事態の収拾と正常化に向けた協力を依頼する要望書を提出しました。また、監督官庁である厚生労働省に対して財団への適切な指導を要望してきます。

植樹会特集

岐阜 認定病院空白県解消！ そして……リレー植樹

ありがとうございますキャンペーン記念植樹を岐阜大学附属病院の玄関前の緑地内で行いました。

これまで、県内に骨髄バンク認定病院がないのは、唯一岐阜県のみでしたが、昨年9月に岐阜大学医学部附属病院が認定病院となり、骨髄採取が行われるようになりました。こうしたことから、今回の記念植樹をお願いしたところ、快諾をいただき、しかも玄関前の広い緑地内を提供いただいたのです。

当日は、風が強く、強い雨が降る中でしたので、休日で休館中であつた病院の玄関ホールを使用させていただき、学長、病院長、県、データーセンターからも出席をいただきセレモニーを行いました。

事前に病院の血液内科待合に記念植樹のチラシを設置したこともあり、担当のドクターや患者さんなどにも参加していただくことができました。

患者さんにとつての生きる希望のシンボルとして、病院を訪れる患者さんを迎え続けてくれることや、理解と協力の輪が県内に広がることを望みながら、雨の中、協力してくれた子供たちとともに桜の苗木を植樹しました。(田中)

宮崎 記念植樹番外編？

2月3日沖縄を皮切りに北上し、5月13日の札幌での植樹会をもって終了しましたが、宮崎では「2009全国骨髄バンクボランティアの集いin都城」の開催にあわせ、5月21日に海沿いのフェニックスの立ち並ぶ宮崎県総合運動公園に於いて記念植樹を番外編で行いました。

趣旨説明の後、宮崎の会の顧問である丸山県議のご挨拶、そして宮崎県健康増進課の高橋次長様にご挨拶をいただき、ドナー体験者2名、骨髄バンクを介して骨髄移植を受けた元患者(当時2歳で、現在は女子高校生)、県職員、患者家族、宮崎の会のメンバー、そして造園屋さんに取材にきた新聞記者まで！参加者18名全員で土をかけ、和気あいあいとした雰囲気の中無事に終了することが出来ました。

同じ日の午前、宮崎県庁本館の正面に立つ県内最古の県木「フエニックス」が99年という命を全うし、伐採されニュースになりました。なんともいえない寂しさを感じましたが、午後からのこの記念植樹で県には新しく「ヤマザクラ」が誕生。まさしく「命のリレー」が行われ



認定病院空白県解消！そして……リレー植樹



北海道がゴールとなりました。札幌では、5月13日水曜、札幌北極病院にて約30人の関係者が集まり、岡山副理事長の意義説明、移植医・同病院院長の笠井正晴先生の骨髄移植の歴史をしのぶ挨拶、北海道さい帯血バンク事務局長東寛先生のさい帯血バンクの現状と将来展望を中心とした挨拶、そして北極病院で骨髄移植を受けた患者さんの闘病生活の思い出と感謝を語る挨拶があつて、エゾヤマザクラの苗木を移植しました。

当初、認定病院すべてを計画したのですが、北大病院では敷地内に地表下20センチ以上の穴を掘るには、埋蔵文化財の事前調査が必要といった難しい問題があり、結局北極病院以外は断念せざるを得ませんでした。

この植樹は、今後の我々の責任のシンボルともなるものだと考えています。(加藤)

札幌 リレー植樹 北海道に到達！

全国で開催された非血縁者間骨髄移植・さい帯血移植のマイルストーン通過を記念する植樹は、

各地のり 各たより

富山 なにがなんでも
パネル・ポスター展！

普及啓発用のパネルやポスターをもつと活用しなければと、今年富山の会の活動目標は、なにがなんでもパネル・ポスター展の開催！

手始めに、職場近くの富山信用金庫太岡山支店にお願いに行つたのが1月中旬。その翌週には展示許可をいただき、1月26日から展示を開始しまし

「ドナーさんと患者さんの手紙展」を展示し、多くの人たちに見ていただきました。イオン仙台大沢SCの開催セレモニーではチビッコチャリダー、地元プロ歌手2人の応援をいただき大いに盛り上がりました。ただ本当にびっくりしたのは、開催期間中に飛び込んだニュースで前宮城県知事が白血病で骨髄移植が必要とのことでした。早速救急会など立ち上がった、もう少し詳しく骨髄バンクを知りたい等、有名人が病気になることも違うのだろうかなどと思いつつも骨髄バンクを知つ

「好評！いのちの輝き展」をイオン仙台大沢SC(3回目)・5/30(6/7)、イオン石巻SC(5回目)・6/20(6/28)にて開催しました。両会場とも、白血病のために、34歳の若さで他界した仙仙沼出身の服飾デザイナーの「山本竜作品展」、3才2か月で天国に行つた「さつと笑顔」写真展、

「心」
生きてください!!

私は3年前(高校2年生)に再生不良性貧血を発病し、7か月の入院生活を送りました。その7か月とはとても過酷なもので、何度も死にかけ、そしてたかさんのものを失いました。当時は絶望で大変苦しかった出来事ですが、今ではたかさんのものを得ることができた病気の出会いだったと思つてます。病気がなくなったから見た世界、病気がなくなったから感じた気持ち

「心」
生きてください!!

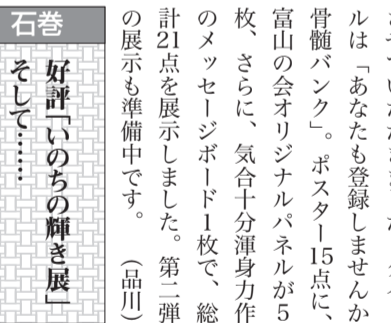
死という恐怖の中で、私は生きる強さを学びました。
「生きてい」
という諦めない気持ち。それは絶対に貴方を裏切つたりはしません。何がなんでも生きてやる、私が当時毎日自分に言い聞かせていた言葉です。必ず希望はあります。諦めないでください。
どんな病気もきつと必ず治ります。乗り越えられます。自分の強い気持ちになによりもの業になるのです。
生きてください!!
私はこの言葉を伝え続けます。貴方が幸福になれますように。(こころ)

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

「こんにちば募金箱」その42
八家ゴルフセンター
(兵庫県姫路市)

今回、八家ゴルフセンターが募金箱を置いて下さいました。八家ゴルフセンターは開業されて25年になり、当時は一面塩田だったそうです。今ではその面影もなく、工業地帯となり、海に近く折海の香りがします。練習場は1・2階あわせて88打席あり、朝から、多くの方が来られております。また、喫茶では、素敵な奥様とかわいいた従業員の方がお客様を迎えて下さいます。

年中無休で正月と灘祭りはお休みです。夜は12時まで営業されています。(濱田)



「こんにちば募金箱」その42
八家ゴルフセンター
(兵庫県姫路市)

今回、八家ゴルフセンターが募金箱を置いて下さいました。八家ゴルフセンターは開業されて25年になり、当時は一面塩田だったそうです。今ではその面影もなく、工業地帯となり、海に近く折海の香りがします。練習場は1・2階あわせて88打席あり、朝から、多くの方が来られております。また、喫茶では、素敵な奥様とかわいいた従業員の方がお客様を迎えて下さいます。

「こんにちば募金箱」その42
八家ゴルフセンター
(兵庫県姫路市)

今回、八家ゴルフセンターが募金箱を置いて下さいました。八家ゴルフセンターは開業されて25年になり、当時は一面塩田だったそうです。今ではその面影もなく、工業地帯となり、海に近く折海の香りがします。練習場は1・2階あわせて88打席あり、朝から、多くの方が来られております。また、喫茶では、素敵な奥様とかわいいた従業員の方がお客様を迎えて下さいます。

「こんにちば募金箱」その42
八家ゴルフセンター
(兵庫県姫路市)

今回、八家ゴルフセンターが募金箱を置いて下さいました。八家ゴルフセンターは開業されて25年になり、当時は一面塩田だったそうです。今ではその面影もなく、工業地帯となり、海に近く折海の香りがします。練習場は1・2階あわせて88打席あり、朝から、多くの方が来られております。また、喫茶では、素敵な奥様とかわいいた従業員の方がお客様を迎えて下さいます。

「こんにちば募金箱」その42
八家ゴルフセンター
(兵庫県姫路市)

今回、八家ゴルフセンターが募金箱を置いて下さいました。八家ゴルフセンターは開業されて25年になり、当時は一面塩田だったそうです。今ではその面影もなく、工業地帯となり、海に近く折海の香りがします。練習場は1・2階あわせて88打席あり、朝から、多くの方が来られております。また、喫茶では、素敵な奥様とかわいいた従業員の方がお客様を迎えて下さいます。

「こんにちば募金箱」その42
八家ゴルフセンター
(兵庫県姫路市)

今回、八家ゴルフセンターが募金箱を置いて下さいました。八家ゴルフセンターは開業されて25年になり、当時は一面塩田だったそうです。今ではその面影もなく、工業地帯となり、海に近く折海の香りがします。練習場は1・2階あわせて88打席あり、朝から、多くの方が来られております。また、喫茶では、素敵な奥様とかわいいた従業員の方がお客様を迎えて下さいます。

「こんにちば募金箱」その42
八家ゴルフセンター
(兵庫県姫路市)

今回、八家ゴルフセンターが募金箱を置いて下さいました。八家ゴルフセンターは開業されて25年になり、当時は一面塩田だったそうです。今ではその面影もなく、工業地帯となり、海に近く折海の香りがします。練習場は1・2階あわせて88打席あり、朝から、多くの方が来られております。また、喫茶では、素敵な奥様とかわいいた従業員の方がお客様を迎えて下さいます。